

第28回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会総会 議事録

日 時：令和6年11月21日（木）午前10時～11時

場 所：西尾市役所53ABC会議室

出席者：（構 成 員）西尾市 近藤副市長

蒲郡市 大原副市長

愛知県 都市・交通局交通対策課 山田課長

（オブザーバー）国土交通省中部運輸局 鉄道部監理課 小中課長

名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部 太田計画部長

[発言要旨]

1 開会（会長：西尾市）

本日の総会は、令和5年度名鉄西尾・蒲郡線の概況、名鉄西尾・蒲郡線再構築等調査検討業務の中間報告、その他として「にしがま線げんき戦略Ⅱについて」の現状報告を予定している。

2 報告事項

令和5年度名鉄西尾・蒲郡線の概況について（名古屋鉄道株式会社）

資料1に基づいて報告

名鉄西尾・蒲郡線再構築等調査検討業務の中間報告について（事務局：西尾市地域つながり課）

資料2-1、2-2に基づいて報告

3 その他

にしがま線げんき戦略Ⅱに係る現状報告について（事務局：西尾市地域つながり課）

資料3・4に基づいて概要と現状の報告

4 意見交換

(蒲郡市)

- ・名鉄西尾・蒲郡線（にしがま線）の運行については、名古屋鉄道様はもとより中部運輸局様や愛知県様を始めとした関係各位のご支援やご協力に感謝を申し上げる。
- ・コロナ禍の状況は落ち着き、世の中が動き出し、利用者は戻ってきたものの、西尾蒲郡線の利用が以前の水準には戻るのはいまだ難しい状況ということを確認している。
- ・全国的に見ても、鉄道の特性である大量輸送を発揮することができていない路線が多数あり、各地で鉄道路線の在り方が議論されている。
- ・名鉄西尾・蒲郡線においても、蒲郡線に関しては、2023年度の輸送密度が1,668人となっており、国の地域公共交通再構築事業の対象となる輸送密度4,000人未満に入っている。この地域にとっての公共交通の在り方を再確認し、名古屋鉄道様の経営実態を踏まえ、今後のにしがま線の在り方について、関係者において協議をしているところである。
- ・蒲郡市としては、今後ますます進む高齢化に伴い、運転を控える方や免許返納をされる方々が安心して暮らせるためにも、安全で安心な移動手段が必要となる。また、子供たちの将来の選択や学業に専念できる環境を整えるためにも、定時速達性のある鉄道の存在は重要であると考えている。
- ・観光資源を活かし、遠方からの来訪者をお招きするためにも、公共交通による移動手段があることで、選ばれる観光地となる。
- ・市民の皆様には、まちに鉄道があるという価値をご理解いただき、行政としても、鉄道があることによる恩恵を認識し、今後も鉄道維持存続のため、行政としてできる施策を行ってきたいと考えている。
- ・蒲郡市においては、今年3月に学生チャレンジコンペで全国377組のアイデアより採択された西浦駅待合所が完成した。
- ・遊びの専門企業と連携して、ボートレース蒲郡場内にお子様楽しめる遊びスペースの「モーヴィ」がオープンした。こちらの施設はボートレースが実施されていない時でも利用でき、指導者も入っている施設となっている。
- ・10月には竹島水族館が従来の展示面積から約2倍となるリニューアルオープンを迎えた。
- ・イベントとしては、7月6日に蒲郡市制70周年を記念して「復刻塗装列車」発車式が行われ、ストロークリームにカラーリングされた車両の運行が始まり、多くの鉄道ファンが歓声をあげていただいた。
- ・以前から続けられている名古屋鉄道様の旅行パックの「でんしゃ旅」では、市の予算で利用者に宿泊施設館内利用券千円分や生命の海科学館入館無料などの特典をつけ、利用促進事業を行っている。
- ・このように三河湾の土地柄を生かした沿線の活性化を図り、三河湾のそばを走る名鉄西尾・蒲郡線の利用促進と魅力発信に西尾市とともに努めていく。
- ・現在、令和7年度までの運行をお約束いただいているが、将来に亘り市民の皆さまが安心して暮らせるよう、鉄道の存続を大前提に、行政の役割を果たしていく。

(愛知県)

- ・はじめに、西尾・蒲郡線の厳しい経営状況の中、公共交通の担い手として、運行を継続していただいている名古屋鉄道と、運行支援を続けられている西尾市と蒲郡市に敬意を表する。

- ・にしがま線の利用者は、コロナ禍により大きく落ち込んだものの、現在は回復基調であり、昨年度は年間300万人を超える水準にまで増加してきた。これも西尾市、蒲郡市、名古屋鉄道によるご尽力の賜物であると認識している。
- ・しかしながら、その区間収支は厳しい状況であり、2026年度以降の運行については、改めて検討が必要となっている。
- ・全国的にも、ローカル鉄道の存続は、少子高齢化、人口減少に伴い大きな課題となっている。国においては、昨年10月、地域公共交通の利便性・持続可能性の向上を図ろうとする地方自治体に対して、新たな支援制度を設けられた。これは、地方自治体が、鉄道輸送の活性化などを検討・実施する際に、調査や施設整備等にかかる費用を補助するものである。
- ・にしがま線については、2026年度以降のあり方について、事務局より説明いただいたとおり、今年度は、両市により、国の（地域公共交通再構築）調査事業を活用した調査が行われており、また、当協議会の中に検討会を設置し、西尾市、蒲郡市、中部運輸局、名鉄、県の5者において議論を重ねているところである。
- ・にしがま線は、沿線住民の生活や観光地への来訪者の方にとって、必要不可欠な移動手段であり、西三河と東三河を結ぶ鉄道ネットワークとして重要な役割を果たしている。
- ・国の新しい再構築事業の活用を含め、両市の意向を大切にしつつ、関係者の協議が円滑に進むように、県としての役割をしっかりと果たせるよう、取り組んでいく。

（中部運輸局）

- ・日頃は国土交通省の業務にご理解とご協力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。
- ・鉄道業界はここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況が続いていたが、今では旅行者数も著しく回復し、駅や列車内においても賑わいが見られるようになっている。
- ・ただ、利用者数に目を向けると、生活様式の変化等の影響もあり、鉄道各社コロナ前の8割から9割までしか戻りきっておらず、運送収入についても厳しい状況が続いているというお話をよく聞くところである。
- ・加えて、物価高騰や燃料高騰、要員不足といった影響により、特に地方部では鉄道を運営していくには大変厳しい状況になっていることを認識している。
- ・昨年10月には地域交通法が改正され、ローカル鉄道再構築に係る仕組みや支援制度が整備された。各地の地域鉄道の沿線においても、地域と鉄道事業者による利用促進も含めた鉄道の再構築についての議論がされているところである。
- ・西尾蒲郡線についても、将来像の検討会を立ち上げて、関係者が今後の鉄道の在り方について、真剣に検討をしているところである。
- ・こういった取り組みと並行して、西尾市、蒲郡市、名古屋鉄道の3者で連携して、様々な利用促進の取り組みを継続して実施していただいていることにも敬意を表する。7月に開催された復刻塗装列車の出発式に参加させていただいたが、多くの方が参加されて、大変盛況であったと感じた。
- ・こうした継続的な取り組みにより、現状をより多くの方に知っていただき、沿線を盛り上げ、魅力を向上させていくことが重要であると考えている。
- ・中部運輸局としても、様々な場面でお手伝いをさせてもらう。地域において西尾蒲郡線の最適な在り方について検討していただくとともに、関係者で意見を出し合って、持続可能な交通機関として運行できるようにしていただきたい。

(名古屋鉄道株式会社)

- ・当社は今年の6月25日で前進となる「愛知馬車鉄道」の創業から130周年を迎えることができた。これまで当社グループを支えていただいた沿線・地域の皆様に深く感謝申し上げます。これからも、日々の鉄道運行の「安全・安心」を支えながら、地域社会の発展に貢献させていただきたいと思っているので、引き続きご愛顧のほどお願いしたい。
- ・沿線の活性化や利用促進について、様々な取り組みをご展開いただき、御礼を申し上げます。
- ・弊社全線の近況としては、空港線を中心に利用が好調な区間がある一方で、コロナ禍を経て、テレワークなど新常態の定着やマイカー通勤へのシフトなどの影響に加え、人口減少もあり、今後の輸送需要はコロナ前までの水準までは戻らない見込みである。
- ・支出の面でも、人件費高騰や資材価格の上昇といった物価高騰の懸念に加え、要員確保といった問題も顕在化してきており、経営環境を取り巻く環境はより厳しい状況になっていくものと考えている。
- ・当該線区については、沿線の皆様に様々な取り組み、支援をいただいているが、先程、報告させていただいたとおり、昨年度の輸送状況を見ても、残念ながら依然として、大量輸送機関としての鉄道の特性を発揮できる状況には至っていない現状にあり、一民間事業者の自助努力だけで路線を存続させていくことは極めて厳しい状況が続いている。
- ・コロナ禍を経て、鉄道を取り巻く環境は大きく変化しており、今後の路線の存続にあたっては、こうした変化に対応した将来像の策定が喫緊の課題となっている。持続可能な地域公共交通体系の構築を目指し、皆様方と引き続き検討を進めていきたいと考えている。
- ・地域の皆さまにおかれましても、引き続き弊社との連携を強化して頂くとともに、沿線の活性化等にご支援頂きますことをお願い申し上げます。

(西尾市)

- ・本日の報告事項にあったとおり、西尾蒲郡線については、利用者数が増えてはいるものの、コロナ前の水準まで回復せず、依然厳しい利用状況が続いている。
- ・そんな中、名古屋鉄道様においては、引き続き安全な運行にご尽力いただくとともに、令和3年12月に締結した西尾市と蒲郡市、名古屋鉄道様の3者による連携合意書に基づき、これまで以上に協力体制を強化し、沿線地域の魅力向上と収支改善に努めていただいていることに、改めて感謝申し上げます。
- ・西尾・蒲郡線については、令和8年度以降の運行が未確定という大きな課題があり、地域の現状を踏まえた上で、将来を見据えた上で、今後の公共交通の在り方を検討することが求められている。
- ・今年度、国の地域公共交通再構築等調査事業を活用し、調査検討業務を実施している。市民、利用者、そして高校生のニーズを踏まえることはもちろんであるが、本市としては、鉄道の存続を大前提に、将来にわたる持続可能性とともに、自治体負担を総合的に勘案して、最も現実的な運行方針をしっかりと定めてまいる所存である。
- ・名鉄西尾・蒲郡線は、西尾市の公共交通の基軸を成し、その存続は本市のまちづくりには、欠かすことにできない最重要課題である。路線の存続と沿線地域の振興、発展は一体であると認識している。今後とも利用促進及び市外からの誘客推進に努めていくので、沿線の学生をはじめ、将来を担う子供たちに安心感を与えられるよう、ご出席の皆さまには、その点をしっかりとご認識を頂き、引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げ、議事を終了させていただく。